

監 査 報 告 書

平成 26 年 8 月 29 日

大学評価コンソーシアム

代表幹事 小 湊 卓 夫 殿

監査人

大川一毅 

私、監査人は、大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）の平成 25 年度（平成 25 年 8 月 24 日から平成 26 年 8 月 29 日まで）の業務について監査を実施しました。

その結果につき、次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

私、監査人は、幹事の業務執行の状況に関する監査（業務監査）に当たっては、幹事が行う諸活動に関する情報提供を受け、必要と認める場合には質問を行いました。

2. 監査の結果

コンソーシアムの活動については、会則および第 1 期活動方針、運営に関する指針にもとづき、適正に執行されていると認めます。

以上

別添

1. 組織の目的と活動内容

全国大学評価者コンソーシアム（以下、コンソーシアム）は、組織の目的として以下3点を掲げている。

- 1) 評価を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。
- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う。
- 3) 評価に携わるすべての人（大学、評価機関、政府等）に役に立つ活動とする。

コンソーシアムは、上記目的に基づき、H24 から5年間の行動計画として、以下2つを掲げている。

行動計画1：大学評価に携わるすべての人が「評価」という取り組みを通して、大学の改善を図っていくための理解を深めるための支援を行う。

行動計画2：評価人材の能力・スキルを明らかにし、評価人材が大学の改善のために効果的な支援が行えるような具体的なテーマを設定し、目的を明確にした評価人材の育成、資質の向上を図る。

平成25年8月24日から平成26年8月29日までの活動結果は以下の通りであることが報告された。

- ・勉強会「米国におけるIR実践を通して考える日本型IR」（立命館大学朱雀キャンパス：27名参加）
平成25年11月12日
- ・研修会「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方（ステップ1・2）」
（京都外国語大学：25名参加）平成25年11月20日
- ・科研費データを活用した研究力把握に関する勉強会
（神戸大学 六甲台キャンパス：29名参加）平成26年6月6日
- ・大学評価担当者集会2014開催（87名参加予定）平成26年8月28、29日
神戸大学、大学コンソーシアムひょうご神戸との共催で実施。会場：神戸大学。

2. 監査人の所見

- ・活動内容について、評価人材の育成や資質の向上を目的とした勉強会や研修会を開催するなど、現場の課題を適切に捉えて実施している。これにあたっては、本コンソーシアム幹事も含め、会員それぞれの多様な経験や水準（スキル）を反映した企画・開催に努力をしている。
- ・最も大きな活動企画である担当者集会の開催において、コンソーシアム会員である評価実務担当者の参加意欲や参加満足感を高める工夫をしている。これにあたっては、幹事会を複数回開催して議論を重ね、綿密な準備を行い、また企画の実施について毎年度の継続性と発展性を図っている。これらのことは本

コンソーシアムに定着した特質となっており、特筆に値する。

- ・昨年度、監査人から指摘があった「年度の開始日と終了時を明確にする必要があること。」および「また、年間活動計画とその実施状況については書式を整え、閲覧可能なように据え置くか、電子媒体などを通じて管理する必要がある。」については対応が図られている。
ただし、本コンソーシアムの web サイトに（ホームページ）ついて、よいものができてはいるが、一般会員や会員以外への周知もふくめ、その活用にさらなる再考、工夫の余地があると考えます。
- ・担当者集会や勉強会に参加する評価担当者の状況を見るならば、評価業務経験がまだ浅い参加者がある一方で、評価業務に精通した会員も次第に増加してきた。評価業務経験の豊富な会員はそれぞれの大学において、評価に係わる講演講師や業務指導に関与する機会も多いと考える。本コンソーシアムの行動計画には「評価人材の育成、資質の向上を図る」ことを掲げている。このことも踏まえ、勉強会や研修会、担当者集会において、参加会員の経験を活かした実地報告やプレゼンテーションの機会を提供することも意義あるかもしれない。今後の検討課題として提案したい。